

関係者各位

平成28年7月20日

学校法人九州総合学院
九州医学技術専門学校
校長 今村 文章

「平成28年度 九州医学技術専門学校 学校関係者評価報告書」
の公表について

平成28年度の学校関係者評価結果をここに、公表いたします。

今後は、関係各位のご意見及びご指導を賜りつつ、全教職員一丸となって改善や工夫を図り、教育水準の更なる向上を目指して参りたいと思います。

今後とも、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月 20 日

九州医学技術専門学校
校長 今村 文章 殿

学校関係者評価委員会
委員長 管原 正志

学校関係者評価委員会報告

平成 28 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

| 委員名 | 所属先 | 役職名 | 備考 |
|-------|--------------------------------|-----|---------|
| 管原 正志 | 西九州大学 健康福祉学部 | 教授 | 本校非常勤講師 |
| 南 惣一郎 | 長崎大学病院 検査部 | 技師長 | 同窓会会長 |
| 小丸 検造 | 長崎原爆病院 医療技術部検査課 | 技師長 | |
| 今里 和義 | 独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 検査部 | 技師長 | |
| 金原 俊輔 | 長崎ウエスレヤン大学 | 教授 | |

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 28 年 7 月 16 日 (土) 18:00～

(九州医学技術専門学校 パソコン室)

3. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

H27 年度九州医学技術専門学校自己評価をもとに評価

今年度に関しては、坂口教務課長より、学校自己評価の補足説明が行われたのち、学校自己評価をもとに、項目別でなく、全体的な学生像についての意見が活発に出された。

《 学校教育基本方針 学校教育目標 重点努力目標 》

坂口課長より

今回の評価の記載方法を4～1の4段階評価をA～Dへと変更した。(4段階評価の評価をわかりやすくするため)

臨床検査科の、学校教育方針他 3 項目の年度末評価が、一昨年(H26 年度)のA評価に対し、H27 年度はB評価であった。理由は、重点努力目標の③の臨床検査技師国家試験合格率 90%以上という、目標に対し、87.5%と目標を下回ったことと、成果と課題についても記載している通り、多数の留年生を出してしまったため、年度末評価をBとした。

校長より

成果と課題のところの表記が、「教育が厳しかったためか」としたが、教育を変えたつもりがないのだが、この言葉でよいか？

委員より

教育が厳しかったではなく、具体的な言葉でよいのではないか。多数の留学生が出たのは、学生の問題であり、学校の問題ではないのでは？Bの評価でなくてもよいと思うが→A評価でよいのではないか？

「教育が厳しかった」ではなく、「学生が意欲を持ったり、理解できるような教育内容ができなかった」などの文言が良いのでは？

→ご意見をもとに、自己評価(臨床検査科)の重点努力目標の下「成果と課題」の文章を書き換え。

坂口課長より

2 年次留年になった学生に面談をして、留年した理由として何が考えられるかを聞いた。

「クラスの雰囲気は定期試験前であっても、試験に向けて頑張る感じがなかった」「授業ができる人のペースで(試験内容で)進んでいった」などをあげていた。

委員より

留年生の高校時の成績、入試などの成績とつきあわせはしているか？ぜひやったほうが良いのでは？

目的のある専門学校なのだから、予習・復習をしながら知識を身に付けていく必要性。楽しいだけはない、専門学校で資格を取ることが目的で来ているのだから。何となくの子では、ついていけない。

すべて、他力本願な考え方。臨床検査技師という職業を理解していない学生が多い。

基礎学力の低さでだんだんモチベーションは下がっていく。いかにやる気を出せるかというのが、必要となる。

実力がないのであれば、留年は覚悟で行くしかないのではないかな。

授業アンケートを基に、問題点は改善しながら「わかるような授業」をしないといけない。

臨地実習が「楽しい」で良いのか？社会に出る前準備としてのものと感じているか？楽しいで仕事をやれるか？決してそうではない。面白くでもやらなくてはならない。という心構えができていない。大学生と専門学校生は全く違うということ。1年生の段階からその意識を持たせないと、2,3年の時に気持ちができている。1年生での基礎ができている。気持ちも学力も。

以下は評価に対してご意見を頂戴したところのみ記載。

《 1. 教育課程・学習指導 》

今後の課題(要望)

- ・学習の可視化を導入してはどうか。(学生自身が自己の成績を評価する)
- ・C評価となった卒業生への聞き取り調査はできるだけ行ってほしい。
- ・国家試験合格100%が最も大事。また専門学校生という立場から鏡検力や生理検査関係の即戦力に近い技術力の習得を希望。

《 2. 生活指導 》

今後の課題(要望)

- ・特になし。現在の指導を継続してほしい。

《 3.進路 》

今後の課題(要望)

坂口課長より

・1年次の病院見学ができていないため、評価Dなのだが、以前の学生が入学して6月に見学したときに内容がわからず、ぼーっとしているのが、よくなく、3年生が臨地実習に行っている時期でもあるため、ご迷惑をかけないように現在行っていない。時期をずらすか実施しないかは学内で検討する。

・学生のモチベーションを上げるためにも、1年次6月の見学をすることは良いことだと思うが。内容がわからない(ついていけない)のであれば、易しく説明をしてもらえるようお願いができないか。臨床検査技師のイメージを持たせるのは良いことだと思う。

・病院見学のできる施設を増やす、もしくは少人数で見学できるように複数回に分けて見学に行かせるのであれば、良いのでは？

医学部の学生も現場を学ぶために入学した4月にすべての部署を見学する。職業意識を持たせるために良いことだ。ぜひ、病院見学は実施してほしい。

・学校の入学当初のオリエンテーションなので、あらためて臨床検査技師について話をすることも、違ってくるのでは？

・国家試験合格率100%と同様に就職率100%は専門学校として必須と考える。同窓会を通じて卒業生(特に、課長、技師長クラス)と学校との積極的な情報支援を希望する。

不明な点 その他

・各病院などへの採用情報問い合わせは行っていないのか？他大学は5月~6月ごろに問い合わせがあるのだが。

《 4. 社会人基礎力 》

今後の課題(要望)

課題解決型学習(アクティブラーニング)の導入をぜひ検討してほしい。

《 5. 広報 》

今後の課題(要望)

特になし。今後も継続を。

《 6. 組織・運営 》

今後の課題(要望)

3年制の専門学校ではなく、4年制に移行することは(専門学校?大学?)できないだろうか。

《 7. 施設・設備 》

今後の課題(要望)

・生理実習室が、使用不可の機器が多くあり、雑然としている。廃棄処理が必要なものは処分をしてほしい。

その他気づき

- 現在の校舎の一部は30年以上前の建物であり、全体的に手狭で老朽化も進んでいる。他の場所に新築移転する構想はないのか？また、3年制の専門学校ではなく、4年制の学校(専門学校？大学？)にして、臨床工学科なども増やしてダブルライセンスが取得できれば、入学希望者や就職率は増加すると思う。
- 何らかの「卒後教育」をすると、卒業生にとっても有意義で本校の魅力にもつながるのではないか。
- 医療秘書科に関しては、全体的に特に問題はなく、良く運営していると思う。今後の日本社会のニーズにこたえるために、語学教育に力を入れたり、「短期留学」制度なども検討するのはどうか。